





ル83
1457
卷

明治四十
四月二日
成津

東谷庄七傳卷之三



八尾

府中 二里九九町

二里二町

○ 入口町

ちこ橋 十九町 町の中より新堀の川

之是より沼津へ舟子糸川と八巴川

より渡畑の沼と新原川と落合川

乃家郷

マカ門より子夜まんとくの水

川中又三町より清水町也清水

女市あり 常憲院様所

所紅花より花あり

建武の初多氏と平村の秋ひて
氏務し不あり け清水うらま
紫之徳の海とまを望こつて大御高
計わり年よりとまを

之徳松糸 豊一里に可務大町余
東へそくかゝる八代徳之為中意松
明神の多よ計楠と介樹しかり
松の下八葉をぞも松露毎一肉凝露
しわり古ら野をわろ居常乞少て

年七八定しかり正月十五日ハ馬と
そくありうをたれ休正九月十日
と歌の多たびた交引てあり
名はゆ也が社ハ高皇産靈の洪御

總津昨也突ととて今ハ二方
拜殿之方田也 大牛頭天正の社

殿は河種あり銘道春作也社
楠の大木たわろ石も流しあり

石と南へ六町計ゆり名上の所
空ろそくそくそく最ハ陰海を流す

衣の松の四柱は本社あり信風強
本をし名とよりかどこれ信中松の楯

一面は目の下にアして風を動け
波はゆる田舎の入口を漕舟ハ松の上

ゆくと教らたよ富士是多柿り
原産地因澤この曲たよ

能次郎清水目の下を奇
能次郎清水目の下を奇

一遊のたし古方よ

清くくく年々くく物々くく重く物
松のくくく竹月とくくくく

神主ハ古田流於て社从百六石并松

系と竹せ 塩漬七わり 二穂が傍

二穂松系 同入江 同浦 風早の浦

皆ッ下の石重

風早の三穂の浦半乃白けし

信実

二任乃浦半乃燧乃乃乃

玉葉集

風子の二任化浦半乃乃乃

同

法多の院

月くくくくくくくくくくくく

史本集

夕日新入海くくくくくくく

又更より船系流水よりかき系乃

信へ上々先より矢終く亦余町

神君様よ後河玉廬系乃流穂社

とわり有後郡八南の流也有後の流

とくハ是乃久終く乃乃の流とくハ流

天母流乃流乃流乃流乃の曲を乃

は流の松よ系とくけ等と流父流乃

乃てゆさず乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

凡そわたりと云はれぬ八ヶ岳の麓に
 坐す此國法師
 有波流子と云ふ名をばりし
 乃りし人神々の名をばりし
 名は村神院落ふ久世寺八ヶ岳
 一室中より三室を此國法師
 久世山と云ふ後と云ふ八ヶ岳の作
 千子五七名もの一ツと云ふ二百名
 余ありて高き家也堂大なる名
 八ヶ岳の君場と云ふ 此隣 觀富
 山は花寺と云ふ日蓮宗の大寺ありと
 院より東と云ふと云ふ八ヶ岳の
 海の家と云ふと云ふ八ヶ岳の
 此より奇景なりと云ふなり



大徳山八幡の町を南へ入り二
法水よりしり舟中へ入るは
東照宮の原宿を引屋敷と
堂塔玉と磨りし社依りし
越中守守く坊中八幡列
院より海防の記より後の
霊地の上より内宮より
天台の末より堂客整昌
中堂の収式を改めし
舟より行基井の建立
舟より観世寺より浦陀
岩三三三餘字の淨房
長明

菅福川を交りし
樂と云ふる
り又人の
をよ入る
を交りし
樂と云ふ
子孫
は雅
今中

神よりし
向形
若ハ天台
此所より

一、平家と徳久爾を先とせり。其後
 世を治り新羅美言とあり。知積院の
 本寺より別當と知満寺といひ。其が
 武田信玄諸河を攻めていふの要害
 又三寺と名取。後一山の標と堀切
 又三寺と名取。後一山の標と堀切
 梅守と居たり。所當家より成
 と改布し。後 遠令より依て所當
 と云々。船昌也。

平門町 江尻おとせり

遊分 香中より信水へこれなり

焼取と云々。畠の中より焼取は
 松林一かつわり。文禄二年二月八日。

九、右の妻嫁如く。池へ身と投分
 冥魂送り。旅人立。其焼取は。此
 より池と吹た。いふと。此又池と
 吹と也。

早川地子 此先ニ所中より矢取たる
 岩原

此より右の方。山は林わり。坂と八町上
 此より大門の記も。七。記書の一ツ小
 て。此基作。亦も。此家。心。靈。山。は
 其を。宗。ま。り。寺。於。十二。石。あり。

大の。つ。で。ま。り。元。心。わり。梶。原。の。上。の
 陰。心。と。七。七。八。町。の。頂。上。梶。原。の
 時。が。自。害。場。と。み。輪。石。塔。あり。と。

龍泉院殿 梶勝源公大居士
 一男 龍泉院 梶勝源公大居士
 二男 德源院 梶原景高居士
 三男 照源院 梶原景茂居士
 四男 保源院 梶原景国居士
 五男 道源院 梶原景宗居士
 六男 心源院 梶原景則居士
 七男 妙源院 梶原景連居士
 八男 心源院 梶原景則居士
 九男 妙源院 梶原景連居士

正治二年丁未正月廿日 梶原平三景持

龍泉院殿 梶勝源公大居士
 一男 龍泉院 梶勝源公大居士
 二男 德源院 梶原景高居士
 三男 照源院 梶原景茂居士
 四男 保源院 梶原景国居士
 五男 道源院 梶原景宗居士
 六男 心源院 梶原景則居士
 七男 妙源院 梶原景連居士
 八男 心源院 梶原景則居士
 九男 妙源院 梶原景連居士

武彦とてしる業打をいれども今河上
 之連久矢と射けけに徳会之連人
 もまうりしをいれし物ケ傍りしに後述
 唐系小沢常任因み身を香山沢常林
 と號せし大門口に述入系内ハ招雲
 宗ひとてよりぬ子凡ハ寺の門前まで防
 矢物に足せし所より西折れりし角
 ぞし五集へりまきしぬいしより西
 府中へりし源右川淺畑の所へ西ぬ

○一里山村

釜の所 草薙とて云

是よりた草薙の所へ十町許渡り
 風土記ニ天照大神と云ふと云り昔

日中或る東夷征伐のためいふ事あり
 於内誠信記に野火と記す一村
 の草薙の劍自抜ケて草薙切拂
 たりと云りお社の焼て修築あり
 楠の本洞の門ハ昔々大木あり神主
 壽水社に於てあり

小田村

若洞 草薙あり

たの方へしと修とよりしを平氏と
 云不躰濁の石をよみ外月の比いふ
 も谷一面は錦と云ふと云り
 ようふまは庭をいふと云り
 海大井川をみゆふと云ふれは夜

山平治もくそまを宗寺に於て十六年
中宗の基を築き其のツキて五年の
傳あり

西条系 ありせり

長沼 ○ おしおれ

白鷺の形

瓶ヶ碕

府中入口右の方を宮之松清水
あり 左に八幡大社を府中より松
海にあり 福門とたゞ まがりの

府中次 丸子を里十六町

海にあり 駿河守府在 安部郡初ハ

川流河を書後よひ玉の水海

急迅まきりうの後逸を

改字なり

○ 馬喰町裏あり

御城 太の方を氏後河を今川家

よ湯りいふと在城とあり九代相續

とあり後義忠氏親氏輝義元氏

真子あり 永保十一年伝言よ進れ

て甲川の領をあり 武田信光七入天正

十四年 大神君信松を多子頼り居

ひ十八年庚寅の年実を足利を

ひ高かを秀有が中村或給少輔一氏

十六方んと揚いなるを六年 四石を

子任成は揚子河十二年七月二日又
 神君江口より移りて江口元和の年
 四月於高城薨一終上後大納言
 頼宣之弟と云ひ元和六年紀列後
 寛永二年大納言忠吉が移りて同
 九年の由事城と改め代り定事
 あり所書院江口加事勤事也と
 室永の年事改と云れれが同六年
 又元の二と云い勤事なり

廣間社右の方而城の西なり延治
 年中富士を移し一移りて
 名なり社た本花園屋形右の慈
 社なるは貴命なり高城の元なり

表つては城の元と云ふ大出紙合
 あり樓門拜殿築き居りて下地堂
 ありあり社元二六百久徳寺建
 徳寺は表別当として社を新文合
 慈社文内と云り

後方のこの山を城根山と云り

風物集

正三任知家

徳たかきと云ふくこの山を正三
 徳の山と云ふまは此山
 今竹と云ふ山は入衣杉と云ふ
 ともうたふ山はまはあまの山

忠三郎

ちりともりの山は杉と云ふ山は
 山は杉と云ふ山は杉と云ふ山
 けいの中は山は杉と云ふ山は杉と云ふ山

列より東のいふは向城と九氏と
 居るや不也。山城の右の下。修海
 寺とて今川代々の菩提所也。寺
 百石あり。後奈良院勅額在。新
 服子氏輝元武田信玄中村一氏
 寺の得也。隣家と天法寺といふ
 末寺あり。又久の西新あり
 後新表門を新。長谷寺あり
 町の中は宝善院とて寺の二百石
 浄光大寺あり。崇源院教宝善院
 殿。長屋あり
 安部川。勸修寺

餅の監物也。安部川紙子、町あり。
 安部川。後大河也。後の田六町と
 葛原川。名居名。のふも舟とて船
 又似たふあり。是より田六町は
 多。泉川の中は本枯の表あり。内
 八橋定あり

新古今意の字。定家々
 清くびぬらうり人々秋のそよ
 夕かてか。の表を下考
 家集 同

本が。の表に指し物あり
 公雄

公雄
 表の川の表のふかり寺と瑞祥山

建徳寺善提樹院と云ふ山あり
 殿宇八十石寺舎立一彩中本堂六行
 基七作の内十の祝事と外堂行
 わり天武天皇白鳳十三年道振
 祥昨宮奉也山乃より海とて
 徳多也 是乃安部川の少よ推
 尾の坊善寺とて今川氏記の善
 抱前山あり入山より基七作の
 内数善堂あり是乃川とて今余上
 是乃是乃係とて安部系あり
 此乃法の寺とて椎尾同流曹洞宗
 わり本堂八の基七作の才一善祝事
 也同流の御古木の片りれ系とて

わり古寺あり本と切りんて谷と
 わりりふ血かり風雲本中くんと
 杉原の基井いよと色とりけおが
 下りもいり切を以て祝事七作と
 刻をを心くまき法寺は楠とて株
 ありが一本あり

安部川は金山石多し
 川と流りてたは用宗の御いん中
 い下石の産中をいふ莫れ法
 以城八甲列と三浦兵部向井ほが
 天三七年三列の法
 南八日女坂とていふと新法
 祝事同流の寺あり同流堂あり

石原城ハ小糸原ヲ守ル

大坂陣ノ末ノ御前ハ大窪山御前寺

ト云曹洞宗寺ハ二十石アリ坂ノ上レ

ニ方丈ナリ石基七作ノ日千ノ御前

アリ大坂陣ノ末ノ御前相市正徳ノ御前

ニ云分メ下リ一ノ御前也

石原村 西門ノ御前也

昔ハ石原家ノ御前也今ハ御前也

大坂ノ虎ノ御前門ノ御前也

カケリ御前ノ御前也

志ノ御前也今ハ御前也

ノ御前也今ハ御前也

鴨ノ御前也今ハ御前也

ノ御前也今ハ御前也

ノ御前也今ハ御前也

ノ御前也今ハ御前也

ノ御前也今ハ御前也

ノ御前也今ハ御前也

ノ御前也今ハ御前也

ノ御前也今ハ御前也

ノ御前也今ハ御前也

ノ御前也今ハ御前也

ノ御前也今ハ御前也

ノ御前也今ハ御前也

△凡子歌 邑於 二里九町
神名帳又麻利子マカリ...

神名帳 後河玉 後河玉 凡子の神
社あり 東郷 文治 又身十月 子歌

平石 又邑 又治 平石 治 又治
拓居邑 又弘家 又建 又建 又建

於 於 於 於 於 於 於 於 於 於
於 於 於 於 於 於 於 於 於 於

下 下 下 下 下 下 下 下 下 下
下 下 下 下 下 下 下 下 下 下

六所 余 余 余 余 余 余 余 余 余 余
余 余 余 余 余 余 余 余 余 余

二月 二月 二月 二月 二月 二月 二月 二月 二月 二月
二月 二月 二月 二月 二月 二月 二月 二月 二月 二月

の 懐 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙
紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙

石 石 石 石 石 石 石 石 石 石
石 石 石 石 石 石 石 石 石 石

山 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二
二 二 二 二 二 二 二 二 二 二

お ね ね ね ね ね ね ね ね ね ね
ね ね ね ね ね ね ね ね ね ね

ね ね ね ね ね ね ね ね ね ね
ね ね ね ね ね ね ね ね ね ね

ね ね ね ね ね ね ね ね ね ね
ね ね ね ね ね ね ね ね ね ね

ね ね ね ね ね ね ね ね ね ね
ね ね ね ね ね ね ね ね ね ね

落れぬをり
八幡橋 三河府 武田

八幡橋 古の方より八幡のありけり社ハ
後列の最前氏納比奈氏の氏神也
今もお家の子孫経包とて必系
信とてしり

冠河 水も里 多金

古の方鏡が割あり

平河川田中の水裏に大釜あり
城ハ信玄後列を付れて元治の城也
馬場長清も又鏡張を在り筑也今

北馬がしをとり初ハは石と徳之色
と云々田中守之と云三十年依田右

傳の位其後所為家走干甲列
其力与た其守長居之と後中村氏

領之長也六年酒井伯隆も忠利
同十二年常陸外村宣郷領之云々永二

年より忠長公領之云々同八年松平
大膳元忠重と賜り高城王と及ふ

散枝 河田 二里八所

田中 越前 口町中たの言あり

津川 歩後在村古は川南ハ

大堰川の下の新保品の後りと云々大

堰橋水の附は保品也武田勝頼

甲列より打たす不毛 大神君

傳わり信康公後殿を事行す不
彦坂子と云ふの伝

かくんてはうらやまのりやうりやう
あせとを屋へり久うううん

○ 志た村入口

志た村の茶屋

大木の橋

南の橋 まりう心

水の上 是を田中腹

六地蔵村 地蔵堂を

吉野 漆戸 茶屋

傳若妙は後河を是段に世止和割

西のいふを河の深飯とておこ米

と云ふは深き之をぬが物ゆをり云

何の火もこし米をとり

たふをりし雲ん中おろりや村うら

十六六所程は又中家

二軒屋 三軒屋

屋川流橋 どんく橋を柱の小橋

細橋

○ 道悦村 とも山橋

おかり屋村

馬田跡 金谷下寺屋

所は助宗と云ぬ治あり

○ 札の辻あり 武蔵の市と云

云長ぬ海に記はる市の市と云

友枝の市と多摩を流るる河川の流り
最清の市は八幡宮の流り
こが友枝の流り

流の西と流田河系と云今八幡宮
まで大井川の水とせよ入るる流田
が流り 利根川流り上流の川
よ宿し流り

向流 中流と云

三月屋 川越河原

大堰川 小分流り此流源
流河を江境川海乃才一の大に也
南風は水より西風は水落氷白
濁 元徳年中若菜係基因
と流り此川より付系作と懐か感

概あり平六流り此流源の分

此の川は流り此の川は流り
いづれの名も流り此の川は流り
まろくく山と川と流り

八幡屋 金谷入川越河原

金塚の東の中は家つらんゆり
流り信玄の内は金谷の流り
修長八大井川下を流る余り
之をわの中が流り

金谷流 西坂は一里半町

西坂と松山の流り

○町三ヶ 長明が流り

一村あり新堀と云ふは、（新堀）は、（新堀）の事なり
 およそ坂の下に、（新堀）の系は、（新堀）なり
 是ハ信玄天正元年癸酉三月場を
 法王又統法を典廐信親系に傳へ
 築室及下徳昌清小泉集人忠孝
 と入室同二年乙亥三列を攻落松平
 周防守忠房と入室給り所の事なり
 上り流治の系は、（新堀）なり

牧の系 権現文 信房の系と改め
 牧井系とすたをと周防と云は
 其古書より傳へ 本より云ふ
 菊川坂 上下十六町

菊川 系全 燒豆腐石系 矢根坂

是も今云わく東面より橋あり、（新堀）は、（新堀）
 上の谷おち菊の花多し菊が園も有り
 昔ハ以不、（新堀）なり 杉物と治
 此系は休み流は、（新堀）なり 此
 地割と歎し和を治し、（新堀）なり
 此系中絶し夜系より、（新堀）なり
 此系は、（新堀）なり 此系は、（新堀）なり
 此系は、（新堀）なり 此系は、（新堀）なり

昔南陽縣菊水 汲下流而延敷
 今東海道菊川 宿西岸而終年

と名は、（新堀）なり 此系は、（新堀）なり
 此系は、（新堀）なり 此系は、（新堀）なり
 此系は、（新堀）なり 此系は、（新堀）なり
 此系は、（新堀）なり 此系は、（新堀）なり

列王系の回江と後...
ついで柱とて詩...
あつた...
あつた...

長崎

ふり...
あつた...

為家

神...
里...

作...
中...

中山系...
右の方...

館の...
遠江...

遠江...
右通...

右通...

か...
よ...

先...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

赤のまきの仕 今ハ事儀社トイハル
玉の文とて大己貴命と余も長命記
さやの中心のわの口をまきのまきと
社何りてこそよらる

又もこしこし海にこしものまき
まきこしこしをまきのまき

ね換

種うけたのこしこし東條
こしものまきはあつた

日坂 掛川 一里は九町

西坂 藤餅名物也葛と
まきのまき

まきのまき

古交 藤屋わりの日坂のまき

古交 藤屋わりの日坂のまき

久村 善田八幡宮社
た銀杏樹あり 右よめが田あり

町行のありとあ畑あり 昔塚あたりの
悪後始ありて一及の田と船のつるま

極さるりま極はるるま 柳掛り
たたりまま前ま葉りし銀杏の本と極

たたりま畑子へ麻とらんりか 柳雷
たたりま畑のまきとま村ま近けれ

修ま留ま留まれてあまるとり
胃絲心 母絲心 た二つあまるとり

は下のめ神の麻と新文へ 延べんと信
りまは神糸許新文を 塩かみ人瀬と

かしまり 藤畑麻と塩と奪ひ

かしまり 藤畑麻と塩と奪ひ

かしまり 藤畑麻と塩と奪ひ

かしまり 藤畑麻と塩と奪ひ

かしまり 藤畑麻と塩と奪ひ

新しと云り。抄本西作基を圍ふ
長谷寺基盤より河の縣と唯旗を
打撃し新基二つの縣ふり基を
打撃し如八男縣心也今よ基石部也
此内版と云く投入新て言傳ふ
たうん今よくなく村と云 塩井川
の向の社ハ塩屋控現と云新作と云
たう一御係なり

まがり屋の橋 三拍橋
塩井川 ○ 是ハ掛川傾

塩井川と云たなわり本の中洞の内水
あり今よ御指川あり

ゆかり川 佐治村 是ハ塩井川の内

大仏寺 山と云多分寺の邊を大

一中橋 是橋 たうん河の邊に中

青木川村 是ハ河也

成竹村 馬喰町 七拍わり

○ 是れをたうんと云

懸門跡 袋井二里十六町

河水邊を流る火掛川と云

高相

これよの河をくしよつと云

今日音布岩物也 入口町と云

云能治わり

城 右の字也 高城今川佐治

新比奈使中守守之成高し將西
永禄十二没落後府日向守
正十八年宣山内對馬守一
年正和年没落守定務同十
助頼時於出之元和三年同
安者守力巨次指之同大
定保寛永二年没落河大
念能没守定宣同十年
幸成夫台乃為燦至

ふちの上 二瀬川
新の上洛
小ヶ森村
虎池村 入

山(行)遊り 十里也
本守
天狗也
皮多村

細田村
山
砂川村
御所

暖川
向
おれ

と背川と云東が川と腰川と云
と云て

後川と背川のより尾流
と云て尾流のより尾流
橋のたより流る社あり
わり六月宗経あり

かろり 名も川と云 多分 花
ぬまか 家二部と云るべの門

たの方又妙星寺と云日蓮
宣忠の寺あり

水名と村 ○ 多分 町と云れよ小橋
ありいふまゝに花祭と云て
本の方 門より久野城あり代々

野氏と云く寛永十七年と云
守氏と云病と云 七ツ敷あり

東の河 あり
代家井入りよあまの橋あり

代家井と云 見分と一里あり
郷侯と云首は和の方皆田と云

代家のと云田の中より井と云
町と云るより橋あり長十三里

久野村山下 曹洞宗 駿遠と云
かゝる縁可 懸念と云寺あり

川井村 代家井と一連也
本原村 ○ 入口ありと云

権現山門社と云社あり
推現山門社と云社あり

西海町 俗名ト海町

右の方十町ほどに際岩井村あり
杉竹の檜の足又金札を付て致され
一合又二杯ほど付てありといふ

雍瓦橋 長四十七尺

中務親王

うしろのくさくさの橋のくさくさ
かきまわらぬ又世を後

雍瓦坂 二町余あり上ニ能登橋現在

雍瓦野村 茅店

大久保 東西又小坂あり

三本松 ぶどうとむ切有見舟入

上の原にて建武紀は美貞正家

大津 大津信玄と言坂あり

下坂あり 下坂 悪傍後致して勇名と

此の三本松は武田方より 藤前と

またりかななり

此の原よりとたりそのが二つあり
藤乃 藤乃とむ每平八

伏見井より三町ほどあり山の上

が池あり昔此敷山は肥後河内系

光公法皇上人の作なり 蛇又池入蛇

似と水命がが之 弥勒のお世三合の

腹を侍人とて侍亦水め法皇を

又小坂道の 藤前ありて遠江

の原作会が池の右に陰海漫々とした
またり成たりともるよみ池たぐ

とよ原光彦禰く水瀉とて
握生がた大蛇とて敵とては地
入新とて今毎年強食とて
新とてあり

見付談 溪松下 四里七町 昔八三里上

大神君と信玄と一言坂で戦わり
敵右衛門尉とては和と焼た
象分東下り人び孫子とて初め象と
ひととて少とてん身とてあり

何伝

能く事て見付の言とてやんか
いふ旅神とてやんかあり

○ 東坂の上より 十王坂とてあり

町中より中川橋十二言 熱社神の社

かひは川橋十二言

西坂 けらと坂とてはかひあり

湯松 系屋まんぢうあり

たは八幡神社三言不詳 廟六堂

あり 町中つきたの言とて今

激池わが長め記とては所今の浦と

美ぬ夏とて言とて二日あり なるかどふ

白糸命の小船とて挿さく浦とのあり

また巡れとて境清水海の中より例傳を

く備とて松とてはひつとては海橋を

まね似たり

信乃とて松の嵐とてはまの浦と
町の望れ居たり



中泉 大さか下町 町の曲りり裏

丸わりのわりのいよの河館の流あり

大津系より自植の樹木あり

厚敷まじりたる稲穂馬よお流

いよのり 横須賀 三里 見分る三里

横須賀城の天正三年なる言大津押

初テ築之大須賀の宮にあり 居て海

子忠政居之天正十八年浪瀬に居

常頼有馬主事高次郎氏を長十六年

台松平忠房が忠政を討て城を及

大津院 町より本坂より流あり

小万能村 たかけ塚あり

文の二又 忠政のいけ

東下 大八橋の洞あり
長瀬 茶屋あり是ヶ境の上と云

右流川と云は其流の内也

こやすの流川而右に云ふ

池田宿 弘場と二町と云は右の方

流と下り二町ゆを寺あり是れ其

と築石塔二つ有左は其石を於

石塔右は石塔なり石を母の石塔なり

左の石塔は石塔なり其の石塔

と云ふは其の石塔は湯屋の棟一様なり

右の本八風を於今のはをさし本を

代をと長を屋安といふは其の傍に

若志の石を湯屋といひは其の傍に

宗屋子幸を於て久安故よりは

と云ふは其の石塔は湯屋の棟一様なり

上流より下りて右に於て入流より掛川

より右に於て入流より掛川

より右に於て入流より掛川

より右に於て入流より掛川

より右に於て入流より掛川

より右に於て入流より掛川

より右に於て入流より掛川

より右に於て入流より掛川

より右に於て入流より掛川

より右に於て入流より掛川

長門紀は天中門と只りなる

東の津と大天竺西と小天竺とあり

舟渡し也大舟より一面をながれ小舟の

東の津の舟より船は衆 杉家入港

の附は川は藤原橋と梅りり先延雲

のどくく言護ひ海り橋先くみりれん

小條泰時風より河辺より舟り安皮と

教者指しけり身をいん人懼て列と云

故に橋金く人意あり流りしとあり

建武の乱は筑前川と流りし東

を舟にり舟世の人の初れ所略と云

富田 一又 是ハ舟の政事し河の

町屋 系江戸の真中ありし中町の町

以り 是より流と下

茅場 小橋あり 安井 中坂

○ あんき橋十四日 橋系橋と云

より流松原史

中坂紙屋三記

さうしより すせと 二里半 舟後

中坂と四里余 中坂坂の中坂町余

字が市野と二里半 是井の上

通着式表ありし中坂町

市神川沼と一里 津浦の

舟は三里半の舟と云

うらまへ事

葉昨新田 ありま葉昨きといふは

香^り居^い松^いの^い方^い松^いか^いと^いふ^い松^い松^い

か^いま^い小^い松^いあり^い といふ^い町

永田 右の^い方^い神^い東^いの^い神^いを^い蒲^い

み^い神^いと^いん^い龍^い松^いの^い子^い孫^い也^い社^い松^いと^いる^い

蒲^いの^い方^い系^い松^い い^いを^いと^い十六^い河^いの^い方^い蒲^い松^い

松^い松^い 入^い口^い小^い松^いあり^い 大^い神^い町^い系^い松^い

○ 松系あり

ま^いご^いめ^い松^い 三^い十^い二^い方^い清^い松^い入^い口^い也^い松^い系

江^いの^い沖^いと^いい^いり

東^い條^い松^い古^い傳^い卷^い末^い三^い終



